



2024年7月24日

国際協力機構（JICA）ベトナム事務所

JICA・FTU 共催 JICA チェア特別講義

「成長モデルの刷新：日本の経験とベトナムへの含意」

7月24日、JICAは貿易大学との共催により、トラン・バン・トー早稲田大学名誉教授による特別講義「成長モデルの刷新：日本の経験とベトナムへの含意」を実施し、大学関係者、学生、民間企業関係者などが参加しました。本特別講義はJICAチェアの枠組みで行われました。

ベトナムは2010年に中所得国となり、間もなく中進国入りも期待される一方で、中所得国の罫から脱却し、ベトナム政府の目指す2045年の高所得国への移行に向け、課題も山積しています。JICAとFTUは、高度で付加価値の高い産業構造への転換を目指し、2000年から現在に至るまで「ベトナム日本人材協力センター（VJCC）」を通じて中小企業・裾野産業育成の重要な役割を担う経営人材の育成などを行ってまいりました。VJCCの研修コースの一つである「経営塾」の卒業生は800名を超え、日系企業をはじめとする外国企業とのビジネス関係を確立し、ベトナムの社会経済の発展に寄与しています。

本セミナーでは主要な成長モデルの理解をベースに、ベトナムが今日参考にすべき日本の開発経験からの示唆を明らかにされました。講義のまとめとして、ベトナムが中所得の罫を回避し、2045年までに高所得目標を達成するには、労働生産性を継続的に向上させることが条件となるほか、経済構造を継続的に上方転換することが、労働生産性の向上、比較優位の転換、国際市場での競争力維持の基礎となると述べられました。さらにこのプロセスにおいて、資本蓄積とイノベーションの両方が重要な役割を果たす、国家は投資効率を向上させ、イノベーションを促進し、構造変革を促進する質の高い人材育成を目指す必要があると強調されました。

JICAは2020年に、日本の近代化と開発途上国への開発協力から得た経験と教訓を共有する機会を広げることを目的とし、途上国のトップクラスの大学や研究機関を対象にした「JICAチェア」を立ち上げました。ベトナムにおいては2021年から事業を開始し、日本研究を志向する機関への図書の寄贈や、著名な日本の研究者による特別講義などを支援しています。

JICAは今後も様々なパートナーの皆様と連携、協力し、ベトナムにおける日本研究の推進、およびベトナムの社会経済の持続的な発展に協力してまいります。

お問い合わせ：JICAベトナム事務所 広報班 関里緒菜

Tel: (+84-24) 3831 005（内線125）E-mail: Seki-Riona@jica.go.jp